（別紙4）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2471100236		
法人名	医療法人 茜会		
事業所名	グループホーム みやき		
所在地	三重県熊野市久生屋町541		
自己評価作成日	平成26年 9月 30日	評価結果市町提出日	平成27年1月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=2471100236-00&PrefCd=24&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 11 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・各、居室からは四季を感じる庭を眺めることができ、時期の果物や野菜を収穫して味わう楽しみがあり、家庭的な雰囲気作りを大切にし、ゆっくり安心して楽しみのある日常生活を送って頂けるように支援しています。
・音楽療法士を迎え懐かしい歌や食べ物、昔ながらの地元の行事、生活の話などで回想法による心のマッサージ脳の活性化を図っています。
又近くには世界遺産もあり外出なども楽しんでいます。
・御家族には写真や、近況報告を毎月担当者が便りを出し、遠方の家族にも安心して頂けるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

三重県の南勢地方の温暖で自然豊かな住宅地の中に立地している。事業所の広大な庭には、季節を感じることが出来る果樹が植わっており利用者の楽しみ事になっており、室内はゆとりのある空間と解放感あふれるつくりであり季節を取り込める工夫がある。グループホームみやきは通所介護・訪問介護・居宅介護支援・介護タクシーを併設し、グループホームの理念『あわてず、ゆっくり、のんびりと』を、看護師でもあり高齢者介護の豊富な経験をもつホーム長と管理者・全職員が共有し、日々の介護にあたっている。また、レクリエーションを行う道具を利用者と一緒に手作りしてゲームを楽しむ等、穏やかで楽しく過ごせるよう支援している事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な共同生活を志し、「あわてず、ゆっくり、のんびりと」の理念を廊下の壁に掲げ、職員間で共有し実践に繋げている。	『あわてず、ゆっくり、のんびりと』の理念を掲げ、利用者の書による掲示もなされている。職員は理念の共有を行っており、日々の利用者への支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、事業所の秋祭りや子供達の慰問の際には地域の人や老人会にも呼びかけし交流を図っている。散歩時などに日常的に交流し近所のガソリンスタンドにも見守りをお願いして地域との繋がりを大切にしている。	久生屋町自治会に加入しており、事業所主催のイベントを地域の方々に広報し、参加を呼びかけ交流を図っている。日々の散歩等で近隣の方々とふれあい、見守りをお願いするなど繋がりを拡げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	無断外出する利用者様がおり、近隣の人々、区長、民生委員の方々、近所のガソリンスタンドにも支援依頼をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回の2ヶ月に1度行い、外部の方々に色々な意見を出して頂き、サービス向上に活かしている。	熊野市健康長寿課・市社協職員・民生委員・久生屋地域代表の方・家族代表の方々が参加し、2か月に1度開催している。会議時に昼食試食会を行い、意見を戴きサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進委員に包括支援センターの方に参加して頂き、熊野市健康長寿課とは協力関係を築くように取り組んでいる。	介護センターみやきとして、相談事・事務処理等、熊野市健康長寿課とは、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の鍵は自由に外に出られるように開放、全職員で拘束のないケアに取り組んでいる。	解放感溢れる開口部からは自由に広い庭に出ることが出来、温暖な気候の空気を感じることができる。身体拘束・言葉の拘束の弊害を職員が理解し、拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内での虐待、高齢者の虐待を防ぐなどの研修報告を学び、入浴時などにもチェックを行い、見過ごしのないよう注意を払い防止している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用の機会がなくできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は説明を行い、疑問にはその都度、十分な説明を行なっている。解約、改定の際にも事前に説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時に日頃の様子をお話し意見や要望をお伺いし、どんなことでも話して頂ける関係作りに努めている。又、運営推進会議にも家族代表で参加して頂き出された意見、要望は質の向上に活かしている。	家族が訪問しやすい雰囲気づくり・話やすい雰囲気づくりに心がけている。面会時には近況報告だけでなく、意見・要望を聞きサービス向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議時や毎朝のミーティング時に出た意見、提案を聴き運営に反映させている。	管理者は、毎朝のミーティング（15～20分）・月1回の職員会議時に職員の意見を聴き、運営に反映させている。今年度は職員の提案で、広い庭でバーベキューを開催し利用者から喜ばれ、楽しみな行事となった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の整備に心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会が少ないが、働きながらトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設を訪問し同業者と交流サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学してもらったり事前に御自宅や施設に訪問し本人や家族から要望等を聞き安心して暮らして頂けるようサービスを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と連携を取り不安、要望等の話し合いを行い本人の様子、生活などを拝見させて頂き良い関係作りを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャー、介護職員でカンファレンスを行い何が必要かを見極めサービスに導入している。他のサービスは利用していないが併設しているデイサービスに遊びに行ったりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の苦にならない出来る事を考え、掃除等の日常的な事や裁縫、洗濯物干したたみ等の仕事を共にしたり、暮らしのパートナーの関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月写真などを付け手紙による状況報告や変化時などを電話で報告することなどで遠方の余り面会に来られない方にも安心して喜んで戴いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に地元の祭りを見学に行ったり、馴染みの場所にドライブや買い物等顔馴染みに会ったりし、馴染みの人や場所との関係の維持に努めている。	利用者個々の生活歴の把握に努め、馴染みの人・場所等関係継続に努めている。本年は、那智山へ外出し、利用者が大切にしている場所に出かけることでとても喜ばれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく皆が参加できるレクリェーションを増やし孤立を防ぎ、利用者同士が関わり合い支え合えるよう職員が配慮、支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退所された方などは、近くに行った時にお見舞いに寄り、御家族とは、買い物などで合うと声をかけて頂いたり相談にのったり、近くに来た時には当施設に顔を出してくれたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活でレクリェーション時、入浴時、散歩中やホールでリラックスした会話の中、希望や意向を聞き取り汲み取っている。	日常の話題作りに気をつけて、入浴時や散歩時に意向や思いをきちんと把握するように努めている。	利用者が穏やかな暮らしが出来るよう支援を行っているが、より深く一人一人との思いや意向の把握を奨めていく事を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、ケアマネージャー等から、これまでの生活歴、経過経緯等をお聞きし入居後は家族等の面会時に色々な話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態にあった支援を行い、過剰介護しないように心掛けている。毎日のバイタルチェック、機能訓練、月１度の嘱託医の往診等で健康管理を行なっている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のミーティング時に変化があれば随時話し合い、月に一度、職員全員で意見を出し合い、3ヶ月毎に見直し、本人、家族の意向に沿った現況課題を介護計画に反映している。	よりよい暮らしを送ってもらうよう、家族からは面会時に意向を聞き取り、職員は、ミニカンファレンスを週1回行い、希望・状態変化を反映するようにして介護計画の見直しを3か月毎・変化時に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日・夜勤の状態を記録し情報や注意点など申込ノートに書き、朝のミーティング等で情報の共有を行ない援助や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々の状態に応じた支援をしている。食事形態の変化、親類の家の訪問等、様々な面で柔軟に対応が必要で実践に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週1回音楽療法や、買い物等、外出などを通じて外的刺激を受け、楽しみが持てるよう支援を心掛けているが、地域資源の活用はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科嘱託医に月に1度往診を依頼しており、ホーム看護師とは信頼関係も築けており何でも相談でき、状態の変化のある時には電話での相談や指示を頂いている。他の分野へは受診援助も行なっている。	看護師との連携を密接にとり、月1回の協力医の往診・かかりつけ医への受診支援等、利用者一人ひとりが適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム内に看護師が常勤している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の地域連携室と相談したり、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の家族には要介護4になった時点で、又は医療行為が生じた時に今後について話合っている。現在看取りは行なっていないが終末期に向けて、入院の出来る病院で本人の状態、家族の希望、先生の判断を仰ぎ出来るだけ希望に添えるようしている。	現時点では看取りは行ってはいないが、本人・家族の希望を聞き、事業所として出来ること出来ないことを伝え、終末期に向けてその人らしく過ごすことが出来るよう支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し、皆が見える所に貼っている。常に看護師に連絡がつく状態で普段から急変、応急処置の話をしており、落ち着いて行動ができる。 定期的訓練は行なっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定、昼間の訓練と年2回熊野消防の協力を得て防災訓練を行なっている。地区の区長さんや、町内の元消防士さんなどに協力をお願いしている。	南海東南海地震の津波想定訓練を行い、近隣の山への避難誘導をおこなっている。また、年2回消防の指導の下、地域の方々の協力を得て防火訓練も行っている。災害時の食糧・飲料水・日用品の備蓄に加え生活用水確保のための井戸もあり、水害の時に非常に役立った。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛け、利用者の気持ちに添う支援を行なっている。	利用者の人格や誇りを尊重することを大切にし、気持ちに寄り添い優しく接している。書類の保管は事務所内で行い、プライバシーの配慮に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を遠慮無く言えるように関わりを多く持っている。自己決定のできない方には思いを汲み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は各自、起床された時間に行い昼、夕食も一応、時間に声掛けはするが、お腹の減りや体調面などで、時間をずらす事もある。日中の過ごし方や就寝時間は各自の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来る人は自身で行なって頂き出来ない人には、その人らしい服装を選んでいる。毛染めは入浴前に職員で行いカットは美容師に来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物、地元のものを取り入れた献立を立てている。利用者と一緒に買い物に行き、おやつなど一緒に作ったりすることもある。又、時々外食に出掛ける。	利用者の好みや季節のもの、地元の馴染みの食材を取り入れ、食事が楽しみなものになるよう工夫している。職員も一緒に食事をとり、会話に花が咲き笑い声が響き楽しい食事風景である。広い庭ではバーベキュー・やきいもを作り大好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を毎日チェックしている。一度にたくさん摂取出来ない人は回数を多くして必要量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行なっている。自分で出来ない方は職員が手伝いうがいなど行なっている。就寝前には義歯は洗浄剤につけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はほぼトイレでの排泄援助を行なっている。さりげなく誘導し、トイレでの排泄を支援している。	『あわてず、ゆっくり、のんびりとのもと』寄り添うケアの実践から、尿意のサインや排泄パターンを把握して排泄の自立に向けて支援を行っている。また、感染予防のため清潔を保つ工夫を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、食物繊維の多いもの、水分などしっかり摂取してもらえるよう声掛けし、排便チェック表を付け個々に対応をしている。レクの中で腹部マッサージなど取りいれている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めて週2～3回入浴。個々の都合で入浴できない時は日を替えて対応し、入浴剤など利用しリラックスできるように工夫している。	週2～3回入浴ができ、体の清潔・血行促進・気分転換等健康維持のための支援を行うとともに庭で収穫した柚子・菖蒲などを使用し入浴がリラックスできるよう工夫し、利用者一人ひとりに寄り添った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室に行き、好きな時間に少し昼寝をされる方もおられ、夜間も自由に就眠している。なるべく希望に応じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を個々のファイルに綴り、すぐに見られるようにしている。手渡しし服薬の確認をしており、症状に変化のある時は嘱託医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸の得意な方は雑巾や洗濯物をお手伝い頂き、音楽の好きな方は週1回の音楽療法に参加してもらい季節のお出かけを計画したりと楽しみ気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が若い頃に行ったことのある那智山に出かける計画を実行。個別にドライブや外食など希望を把握して支援している。又庭での果物の収穫や散歩などは日常的に行なっている。	広い庭に出ての日々の外気浴・季節を感じる果物の収穫が楽しみ事になっており、四季のお花見・花の窟神社・遠方への外出（那智山）にも出かけている。また、職員との1対1のドライブや外食など、利用者一人ひとりの希望を聞き取り支援を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、一緒に買物に行った時など、自身で財布を管理されている方は自身でお預かりしている方は財布をお渡しして自身で支払いをされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではないが、お礼状を書かれている方や、年賀状を書いて、家族や知人とやり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖かみを出せるよう各居室の入り口にのれんを付け、プライバシーを守り、廊下の壁にはお出かけした時の写真を飾り、楽しく居心地の良く過ごせるように工夫している。	各部屋の入口には利用者の名前が書いてある手形が掲げてあり、リハビリに使用できるよう工夫されている。広い廊下・解放感溢れるリビングは清潔に保たれ、季節感を感じることができ居心地良くすごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時の位置は決まっているが、それ以外はテレビを観る時やレクリェーションの時など、気の合う利用者同士が一緒に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や身の回りの物は今まで使い慣れた物を使用している。家族の写真を飾ったりと居心地良く暮らせるように工夫している。	居室からも庭に出ることができ、明るく開放感あふれている。入口には職員の手作りの暖簾が掲げてあり、使い慣れテレビや家具・懐かしい写真・便利な携帯が置かれ、居心地良く暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には名札をつけている。トイレや浴室など大きく名前を書いて分かりやすくしている。		